

長久手市行政評価票（S票：施策評価票）

施策番号	S33	施策名	福祉関係（障害者手当、福祉医療費、各種検診、予防接種等）の費用負担の見直し
担当部課	福祉部保険医療課	関係部課	福祉課、保険医療課、健康推進課

基本情報	第6次総合計画・基本目標	4 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち
	行政改革指針・重点課題	—
	法定受託事務の有無	無
	その他（関係計画、要綱等）	有 データヘルス計画、国民健康保険法、地域福祉計画
施策開始の背景、経緯等	高額な治療による医療費の増大を抑えるため、ハイリスク者を対象とした重症化予防事業を行う。	

施策の目的等	施策の内容	（どのような施策なのか） 健康リスクが高い人に対し、対象者の状況に合わせた通知を発送する。中でもハイリスク者に対しては専門医等による保健指導を行う。
	施策の対象	（誰、何を対象にしているか） 長久手市国民健康保険被保険者の内、レセプトデータ及び特定健診の結果から基準値を超えた者
	施策の意図	（対象をどのような状態にしたいか） 健康状態をコントロールし、重症化することを防ぐ。

目標・成果推移等①	重症化予防事業				
	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	中期 (おおよそ3年後)	長期 (おおよそ5年後)
	成果・実績	成果・目標	成果・目標	成果・目標	成果・目標
健診結果や過去の病院受診状況から、病院受診が必要な人に受診勧奨通知を送付する。 R2に決定した対象者にかかりつけ医と連携して、専門医、栄養士、薬剤師による保健指導を行う。	受診勧奨を行い、重症化する前に治療できるようにする。 専門医等と協力した保健指導により、人工透析や手術に移行しないようにする。	受診勧奨を行い、重症化する前に治療できるようにする。 専門医等と協力した保健指導により、人工透析や手術に移行しないようにする。	受診勧奨を行い、重症化する前に治療できるようにする。 専門医等と協力した保健指導により、人工透析や手術に移行しないようにする。	受診勧奨を行い、重症化する前に治療できるようにする。 専門医等と協力した保健指導により、人工透析や手術に移行しないようにする。	受診勧奨を行い、重症化する前に治療できるようにする。 専門医等と協力した保健指導により、人工透析や手術に移行しないようにする。
費用・見込み (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)
保健事業業務委託 3,924千円	保健事業業務委託 4,975千円	保健事業業務委託 4,975千円	保健事業業務委託 4,975千円	保健事業業務委託 4,975千円	保健事業業務委託 4,975千円
保険者独自提供データ作成委託 773千円	重症化予防事業委託 2,497千円	重症化予防事業委託 2,497千円	重症化予防事業委託 2,497千円	重症化予防事業委託 2,497千円	重症化予防事業委託 2,497千円
市民参加数・見込み	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み
(延べ) 受診勧奨293人 保健指導 9人	(延べ) 受診勧奨400人 保健指導 23人	(延べ) 受診勧奨390人 保健指導 25人	(延べ) 受診勧奨380人 保健指導 25人	(延べ) 受診勧奨370人 保健指導 25人	(延べ) 受診勧奨370人 保健指導 25人

目標・成果推移等②	福祉医療費助成制度				
	R3年度 (2021)	R4年度 (2022)	R5年度 (2023)	中期 (おおよそ3年後)	長期 (おおよそ5年後)
	成果・実績	成果・目標	成果・目標	成果・目標	成果・目標
高校生世代を対象とする入院費助成制度の周知のため、新高1世代にあたる647名に制度案内を送付した。	事業を継続	事業を継続	事業を継続	事業を継続	事業を継続
費用・実績 (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)	費用・見込み (細々節名) (金額)
子ども医療費 430,173千円	子ども医療費 435,151千円	子ども医療費 439,502千円	子ども医療費 443,897千円	子ども医療費 448,335千円	子ども医療費 448,335千円
障害者医療費 87,597千円	障害者医療費 101,773千円	障害者医療費 104,826千円	障害者医療費 107,970千円	障害者医療費 111,209千円	障害者医療費 111,209千円
市民参加数・実績	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み	市民参加数・見込み
(延べ) 0人	(延べ) 0人	(延べ) 0人	(延べ) 0人	(延べ) 0人	(延べ) 0人

活動状況	活動エピソード	（活動のエピソード、コメント、特記事項など） 超重症化予防事業は保健指導をするうえで、スマートフォンアプリのみを使用する予定であった。しかし、高齢な参加者が多く、アプリをうまく使いこなせなかったり、そもそもスマートフォンを持っていない人もいたため、急速、紙による保健指導の方法を追加した。
------	---------	---

改善状況	改善ポイント	（何をどのような状態に改善したのか、改善が必要なことなど） 超重症化予防事業は、委託業者、専門医・薬剤師・栄養士等、幅広い職種の人に関わることもあり、事前の調整に時間がかかってしまうことがあった。
------	--------	---

評価	評価・課題	（進捗状況や課題など） 超重症化予防事業について、参加者の定員を20名としていたが、実際に参加の同意が得られた者は9名であった。対象者に、より興味を持ってもらえる案内の方法を検討する必要がある。
----	-------	--

費用対効果	施策の意図に係る費用対効果の分析	（施策の意図に係る費用対効果の分析、検討、研究の状況など） 人工透析は一人当たり年間500万円程の医療費がかかるため、ハイリスク者には個別で積極的に介入をしていく必要がある。
-------	------------------	--

今後	今後の方向性、改善点	（施策を実施するにあたって今後の方向性、改善点など） スマートフォンアプリを使用しないで超重症化予防事業に参加する者は、紙による食事等の記録を行うが、面倒という意見がある。記入してもらうものの取捨選択が必要である。
----	------------	--

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当	
------	--------------------	--

内部意見への回答	
----------	--